

INDEX

- ◎ 面白い仕事
- ◎ インターネット活用のヒント
instagram の向こう側・マリの噺
- ◎ 書評
- ◎ 制作事例
- ◎ あとがき

ごあいさつ

こんにちは。先日コンビニで久しぶりにムック本を購入しました。その名は「ブッタが教える ラクな生き方」という本です。私のメンタルが壊れかけているわけではなく、長女に読ませようと思っての購入です。第 2 章が「他人とくらべない」ということについて書かれています。長女は 14 歳。最近では LINE や Instagram にどっぷりハマっているの、心がざわつくことが多いと思い、是非読ませようと思います。私もそうですが皆様も SNS を見て、心がざわついたら 2500 年の歴史を誇るブッタの教えを取り入れて、清らかな心を取り戻しましょう。

面白い仕事



面白い仕事ってなんでしょう。私は、面白い仕事はこの世に一つも無いと考えています。仕事をしていく中で、何かしらの成功体験を得て、仕事が面白くなることはあっても、最初から面白い仕事は無いですし、求められても困ります。

面白さを伝えましょう

人が集まらない。採用できない。特に建築・建設業の方から、よくご相談をいただきます。

人は面白そうなもの集まるのですから、もっと面白さを伝えましょう。また、面白いことをしましょう。沼津の修繕工事の会社では、福利厚生で本格的なトレーニングジムを作るなど、働きやすい環境作り？で、「3K」イメージが強い業界ながら、求人応募数を 40 倍にし、売り上げも約 2 倍にアップした事例もあります。

私も普通にやっているだけでは、結果も普通になるのは当たり前なので、面白いことやりたいと思います。(画像のような面白さを追求するわけではありません)

Internet Utilization Tips インターネット利用のヒント

ネットの怖い話シリーズ第一話

instagram の向こう側・マリの噺

instagram を眺めていると、幸せそうな投稿で埋め尽くされている。

「お金持ちの旦那様が高級ホテルに連れていってくれた！」とホテルで豪華ディナーの写真。

「子供たちがいい学校に入れるように頑張っています」とブランド服に身を包んだ子供と某有名塾の写真。

前述で「幸せそうな投稿」としたが、逆に満たされていないから幸せアピールをして承認欲求を満たし、心の安定を図っている可哀想な人とする見方をする人も中にはいる。人間の闇の深さを知る人はそのような邪推もしたりするが、純粋に幸せで毎日の記録としてアップしているだけの人もいるだろう。

本当に幸せな人というのは、それが当たり前すぎて幸せなことだと感じなくなっているタイプの人だと筆者は思うが。(白夜行の江利子的な)

しかし、マリは違った。マリはネットに書かれていることが全て真実だと思い込んでしまうタイプの人間だ。

T 川市で有名なイタリア料理店 C があつた。そ

こは料理の味もよく、店員の態度も良いと、連日大盛況だったが、それをよく思わないライバル店 B がネットの評価で悪い投稿を連日投稿するという嫌がらせに出た。

また、良いクチコミを投稿してくれる会社を雇い、情報操作をしはじめた。

「B は美味しくて、店内の雰囲気もよく最高」

「人気というので、行って見たが、C は混みすぎてピザが冷めて出てきた。スパゲティも伸びてたのもう行かない」

「C のクリームソースは、こってりしてて私には合わないかな...」

など、誹謗中傷には当たらないグレーなラインで。

(冷めてるとか、こってりなどは個人の感じ方によりますし、もちろん冷めてる料理は出てこないのですが、混んでる店ということでもいかにもそれっぽい悪口を。)

C の常連は、こんなクチコミは当てにしないかと思うが、T 川市に初めて来て周辺でイタリアンを探している人はネットのクチコミを頼りにするしかないので、B に行ってしまうだろう。

マリも C の味の方が好みだったのだが、ネットを見ているうちに「B の方がいいのかも？」とってしまったひとり。

アクセス稼ぎの為のネット記事も鵜呑みにしてしまう、ネットリテラシーが低い女である。

そのマリが SNS で幸せアピールしているママ・サトミに目をつけた。

マリは不妊が原因で離婚を言い渡され、細々と派遣で生活を送っているアラフォーだ。

しかし、最近夫の不倫相手に子供ができたので、離婚を言い渡されたと知り鬱気味になり、訴える気力もなくなり希死念慮も見られるようになっていた。

会社も休みがちになり、派遣切りにあっってしまった。

傷病手当の申請もしたが、「甘えるな」と受け入れられず貯金も減ってきた。

なので最近はずっと家に引きこもりネットを見ている。

もうアラフォーになると、皆家族と過ごす時間が増える。

マリの相手をしてくれるのは子持ちの主婦くらいしかいないのだが、子供のいる女性と会うのはマリの離婚の原因が原因だけに、妬ましい黒い感情で見えてしまう自分があるので会いたくない。

外で誰かと会う機会が減ったマリは、もうネットに書かれている情報が全てなのだ。

不倫相手の名前がサトミだった。知っている情報はそれだけ。

SNS のサトミはただ幸せアピールをしているだけで、更に本名もサトミなのか定かではないのだが、それがマリの嫉妬心に火をつけることになった。

本物のサトミに矛先が向かうのは分かるが、本物のサトミはどこに住んでるかもわからない。

SNS のサトミを見ているうちに、憎悪の対象がそちらに移ってしまった。

「ほぼ安定した生活ができると思ってパートか派遣でやってきたのに ... 夫に捨てられた私はどうすれば ...」

「もう生きていても何もいいことないし。」

「楽に死にたいから死刑になりたい。」

「幸せそうなサトミを不幸のドン底に陥れたい。」

サトミの SNS を見ると子供の投稿が多かった。その中で制服を着ている子供の写真があった。

「みいつけた。」

マリはほくそ笑むと、その制服の学校を特定した。

マリは早速、闇バイト募集サイトで「金持ちの子供を誘拐して身代金をとる仲間募集」と仲間を集めた。

====

.....以降、グロ描写と胸糞展開があり、ニュースレターらしからぬ内容になるので自主規制します。

ネットに絡めて文字数多めの文章というのがニュースレターのテーマなのですが、今回は「ネットを使う上でのあらゆる可能性について」を描きたくて書いてみた小断です。

ネットは良い使い方も、悪い使い方も幅広い使い方があります。

ホームページの魅せ方でお悩みの方、SNS の運用でつまづいている方、良いプロモーションの仕方、想定される懸念点など幅広い経験を持つスタッフがお話しを伺い、アドバイスさせていただきます。



先日、メルカリで子供のスーツを 2000 円で購入し、くらしのマーケットでカメラマンを格安でお願いし、とってもリーズナブルに七五三撮影をすることができました。これは良いネットの使い方ですね。はい。

(文・写真 田代彩乃)

挨拶文の内容とコラムのテーマが多少かぶりでしたが、SNS の弊害ですね。他人と比較しだすとキリがありません。大体、インスタはリア充自慢、twitter は匿名だと愚痴ばかりな気がします。

まあ、ソーシャルメディアの一つとしての SNS ですので、あくまでメディア。メディアに振り回されない様にしたいものです。(木村)



今号の「書評」



ラグビー日本代表の五郎丸選手が読んでいた！と話題になる前に読んでいた本なので、細かい内容は忘れてしまいましたが、読了したときの気付きだけは覚えていて、今もよく思

い返すようにしています。私の気付きは、「人は変えられない」ということ。自分ですら思い通りにならないのに他人が自分の思い通りに動くはずが無いということを確認した本です。

変えられるのは自分自身だけ。人を変えようと思わず、自分の受け取り方を変える。ある意味諦めの部分もありますが、気がラクになります。期待どおりにチームが動かない、従業員が動かない、思い通りにことが進まない！と人間関係で悩んだことがある方は、是非読んでみてください。

自分の小さな「箱」から脱出する方法

アービンジャー インスティテュート (著), 金森重樹 (著), 富永星 (著)

おすすめ度：★★★★☆



制作事例紹介

株式会社ハウジングウエスト様 紙製クリアファイル制作

ディレクション：田代彩乃

デザイン：棟方絵美里

ハウジングウエスト様の紙製クリアファイルを制作させていただきました。

シンプルなレイアウトをご希望という事で大事な情報のコーポレートロゴをセンターに持っていて、会社情報の住所や電話番号を下側に持ってい



き情報の差別化を図りました。尚、会社の住所情報ではフォントの太さを調整したり、ラインを引くことにより視認性をあげてあります。

脱プラなど環境問題改善の一步となるよう、紙から作られた紙製クリアファイルの導入を始めております。紙の質感の手触りも非常に心地よく、温かみがありプラスチック独特の臭いも御座いません。

是非皆様もご検討ください。

お客様情報

株式会社ハウジングウエスト
〒171-0014
東京都豊島区池袋 2-38-7 加藤ビル 2F
TEL:03-6914-1440 / FAX:03-6914-1441
URL: <https://housing-west.com/>

■木村より■

柿島社長、ご注文ありがとうございました！

先日、SDGs 支援機構代表の河上伸之輔氏の講演を聴きましたが、今後は中小企業こそ SDGs を意識していく必要があると再確認しました。このような活動は小さくてもできることからよいと思っています。始めるたら、それをきちんと広報することが大事です。広報することで、SDGs を判断基準としている企業から仕事をいただいたり、意識高い会社と思われていい人が採用できたりするかもしれません。

私は海洋プラスチックについての映画を見て活動を始めました。きっかけは何でもよいと思います。これを気に SDGs に目を向けて見てください。

このニュースレターでご紹介させていただく方募集しています



このニュースレターはドットワンとご縁をいただいた方に発行させていただいております。

お客様の事業を紹介させていただくコーナーを制作しています。

載ってあげてもいいよ！という方は、タイトルに『ニュースレター掲載希望』と書いて、メールください。取材にお邪魔させていただきます。

宛先：kimura@dot1.tv

🐦 あ・と・が・き

- デザイナーの棟方さんが退職されました。ちょっと抜けてる部分もありましたが、優しく可愛らしいデザインをたくさんしてくれました。よりデザインに特化した仕事をされるそうですので、成長して戻ってきてくれたらいいなあと思います。
-  今回のニュースレターは小6の次女も校閲してくれました。「たり」は2回で1セットと教えられてしまいました。子供の成長は早いものです。
-  小さな社会貢献として「子供が売られない世界をつくる かものはしプロジェクト」に寄付継続中です。



代表者プロフィール
木村太一 (Kimura Taichi)
1979年8月9日生まれ 東京都日野市出身
日本大学第二高等学校 卒業
日本映画学校 (現日本映画大学) 卒業
家族構成：妻と娘3人
趣味：ゴルフ 筋トレ
・東京稲城ロータリークラブ 会員
・カッコいい資格はもってません。正直、元気、やる気、親身が取り柄です。

出版・編集

ドットワン合同会社

電話 :042-519-6960 / FAX:042-533-5421

〒196-0001 東京都昭島市美堀町 5-16-22-302

URL: <https://dot1.tv> e-mail: info@dot1.tv

配信停止について

このニュースレターでは、すぐに役に立つ情報アドバイスを提供していますが、本ニュースレターがご不要な場合は上記連絡先まで、ご連絡ください。

免責事項

このニュースレターでは、すぐに役に立つ情報アドバイスを提供していますが、本ニュースレターで提供された情報、およびアドバイスによって発生した問題に関しましては一切、当方やライターに責任や義務は生じません。読者はここでの情報を参考にした判断や行動は、全て各人自身の責任となります。